



## 阿蘇の地域づくり情報誌 Vol.20



公益財団法人 阿蘇地域振興デザインセンター

〒869-2612 熊本県阿蘇市一の宮町宮地2402(熊本県阿蘇総合庁舎内)

TEL.0967(22)4801(直通)/0967(22)1111(内線571)

FAX.0967(22)4802 URL <http://www.asodc.or.jp/>

## CONTENTS

理事長挨拶	1
世界ブランドの確立	2~3
阿蘇くじゅう観光圏	4~5
阿蘇ジオパーク	6~8
回遊の交通体系づくり	9
新法人への移行について	10
阿蘇の地域情報	11
世界農業遺産認定	12



## ご挨拶



公益財団法人  
阿蘇地域振興デザインセンター

理事長 河津修司

阿蘇地域振興デザインセンターは平成25年4月1日より「公益財団法人阿蘇地域振興デザインセンター」として新たな一步を踏み出しました。当財団の前身となる財団法人阿蘇環境デザインセンターは平成2年5月に設立されました。熊本県において「阿蘇」が貴重な地域資源であるとの認識のもと、住民を含めた地域全体が「自立自興」の精神を持ち一丸となって、恵まれた自然・景観との調和を図しながら地域づくりを進めることを目的としています。組織名称が更新されても、阿蘇地域振興デザインセンターは、「地域振興」「観光振興」「環境・景観保全」「情報発信」の4本柱を保持し、阿蘇地域全体の活性化に向けて様々な事業を進めていきます。

平成24年度から向こう5年間では新・中期計画を掲げています。「豊かな自然による世界ブランドの確立」「阿蘇草原の維持・再生」「地域の元気再生による地域力向上」「広域連携による競争力のある観光づくり」という3つの切り口が4本柱の時流に合わせた体現を推し進めます。

本年5月29日、阿蘇が国際連合食糧農業機関（FAO）により世界農業遺産（GIAHS）へ認定されました。伝統的な農業や文化習慣・生物多様性の保全を目的に、FAOが推進する国際的な取組みで、「阿蘇の草原の維持と持続的農業」が評価されたものです。現在、阿蘇の農業は、TPP問題、後継者不足など多くの課題を抱えていますが、地域にとって展望を開き得る明るいユースになりました。

また阿蘇ジオパークについては、「阿蘇カルナラ国際シンポジウム2013」を7月25~26日に開催しました。火山と共に生ずる阿蘇ならではの発表に阿蘇地域の方々は大いに関心を寄せられるものとなりました。

富士山が世界文化遺産に登録されました。世界への晴れがましい言葉であると同時に、地域社会への様々な課題も浮き上がつてしましました。阿蘇世界文化遺産への道のりはまだまだ険しいのですが、地域の景観保全を身近に考える機会をもたらすなど、地域の暮らしの価値に私たちが気づく掛けとなつてします。

昨年7月に阿蘇地方を襲った豪雨被害からの立ち直りはいまだ完全ではありませんが、こうした阿蘇の世界への挑戦が地域を勇気づけています。新生なった公益財団法人阿蘇地域振興デザインセンターも、公益性を一層高め、地域の方々に、そして九州、日本へ範を成す組織として事業を邁進していく所存です。

新たな命で職員が一つになつて住民の皆様から信頼され、事業の成果を着実にあげるとともに、その使命を果たすよう努力してまいります。今後とも住民の皆様方のご支援ご協力よろしくお願いいたします。

豊かな  
自然による

# 世界ブランドの確立

阿蘇の草原は、採草・放牧・野焼きなど地域の人々の歴史によって永きにわたって守られてきました。現在、農畜産業の低迷や担い手の減少などに伴い、阿蘇草原の維持が危惧されていますが、熊本県下では、こうした趨勢に反比例するように阿蘇草原再生千年委員会の設立や阿蘇草原再生募金の開始等により、阿蘇の草原を維持・再生する気運が高まっています。加えて平成21年の日本ジオパーク認定以降より一層の環境・景観保全の必要性が認識されるようになりました。阿蘇地域振興デザインセンターは阿蘇の貴重な財産である「草原の維持・再生」に沿づべく、環境・景観保全の促進を図りました。

## 千年の草原を活用した

### 阿蘇地域活性化総合戦略の策定

平成24年度から事業の柱の一つとして「草原の維持・再生」に取組むことを掲げておりました。「草原の維持・再生」は、地域活性化と不可分のテーマであり、関係する施策分野も幅広く、検討する課題は多くなります。こつした背景を勘案し、地域をとりまく経済社会と草原の現状及び阿蘇地域振興デザインセンターのこれまでの事業成果を踏まえ、阿蘇地域全体の活性化に結びつけていくよう戦略的な取組みを進めさせていたための計画を策定しました。

この計画策定にあつては、阿蘇草原再生協議会や草原再生募金活動、熊本県の「あそ草原再生ビジョン」策定など様々な関係者の動きと調整を図りながら、各市町村への個別ヒアリング、地域住民や観光事業者へのアンケート調査を踏まえ、向こう5ヶ年の計画として整理しました。



さうに本計画は、内閣府の「地域活性化総合特別区域」制度の趣旨とも合致していることがあり、その一部を「千年の草原の継承と創造的活用総合特区」として、関係市町村の連名による指定申請書の整理とりまとめを行い、提出しました。

## あそ千年祭の開催

平成24年7月に起きた九州北部豪雨災害からの阿蘇地域の復興機運を盛り立てるとともに、千年にわたり守られてきた阿蘇の草原を次世代に継承する契機とするため、熊本県や関係市町村と実行委員会を組織し、阿蘇復興及び阿蘇草原の文化、自然食をテーマとした「あそ千年祭」を10月27日(土)・28日(日)の2日間、高森町の月廻り公園において、開催しました。

武蔵野美術大学基礎デザイン学科の宮島慎吾主任教授等の指導の下、九州北部豪雨災害から100日を経過した10月20日(土)から一週間、延べ300名以上のボランティアの加勢により、あか牛やくまモンなどの巨大オブジェ草アートが阿蘇五



岳をバックに雄大に出現しました。草原で採取された干し草を使用した国内初の試みでした。草原維持に大きな役割を担う一方、近年そのヘルシーな肉質で注目される阿蘇のあか牛のバーベキューの振る舞いや草原の成り立ちなど草原の持つ多面的な機能について学べる環境学習ブース等も設置しました。

なお、「あそのみなみのあきまつり（南阿蘇村）」「上色見復興祭（高森町）」とのタイアップにより、初日は約5,000人、二日目は約12,000人の来場者がありました。



# 阿蘇くじゅう観光圏

観光地域づくり  
プラットフォーム  
支援事業

## 新観光圏認定

観光圏整備法基本方針の改正に伴い、平成25年4月に阿蘇くじゅう観光圏を含む全国6地域が新観光圏として認定を受けました。新観光圏は、複数の観光地域づくりマネージャーを構成員とするプラットフォームを設置しており、阿蘇くじゅう観光圏は阿蘇地域振興デザインセンターがその位置づけとなっています。阿蘇くじゅう観光圏は「阿蘇カルデラ～命きらめく草原の王冠～」をコンセプトに、様々な滞在コンテンツやプログラムなどを活用し、国内外からの来訪者に満足していただけるよう、新観光圏として活動していきます。



■ A1判片面カラー印刷 20,000部発行  
■ A4判片面カラー印刷 20,000部

## 阿蘇くじゅう観光圏「マップ作成

平成23年度から阿蘇くじゅう観光圏に宮崎県高千穂町が新たに加盟し、規模が広域化したことから、観光圏全域を把握できる広域マップを作成しました。描画方法をデフォルメすることなく、縮尺を合わせ、且つ地域の高低差などもわかりやすくなるように配慮しました。周辺地域のインターネットエンジや阿蘇くまもと空港を盛り込み、活用の度合いを高める仕上がりとしたマップの利活用を図ります。



■ A4判36ページカラー印刷 20,000部

## 阿蘇地域観光体験プログラム集作成

「阿蘇ゆるっと博」の受入れ体制を維持しつつ、平成24年度からは、更によりよい観光地としてステップアップしていく必要があります。現在ある体験プログラムや、おもてなしコンシェルジュ機能、「阿蘇・旅の市場」システム情報活用術に、新たに阿蘇ジオパークの理念を盛り込んだ新しい旅のカタチをガイドブックに編集しました。

今後はこのガイドブックを軸に効果検証を図りながら、観光地域づくりプラットフォームの形成に向け、完成度を高めていきます。

滞在交流型の旅を提供するには訪問先での相談など適切に対応する地域「コンシェルジュ」の存在がきわめて重要です。そのため各市町村単位にある観光インフォメーション機能や、地元旅行会社などを地域「コンシェルジュ」として育成する研修会を開催しました。

また、本研修会では、各エリアでの現地研修などを取り入れ情報共有を図り、組織や職員を横断する連携強化を意識づけた受入れ体制の整備を行いました。

### 第1回研修 平成24年9月20日

大阿蘇環境センター未来館（参加者：52名）

### 第2回研修 平成24年10月25日

阿蘇ジオパーク・Aコース（参加者：29名）

### 第3回研修 平成24年11月21日

阿蘇ジオパーク・Bコース（参加者：38名）

### 第4回研修 平成24年12月13日

阿蘇ジオパーク・Cコース（参加者：36名）

### 第5回研修 平成25年1月23日

阿蘇ジオパーク・Dコース（参加者：32名）

### 第6回研修 平成25年2月28日

阿蘇ジオパーク・Eコース（参加者：36名）

## 阿蘇温泉郷・湯ごもり祭開催

阿蘇くじゅう観光圏に点在する特徴的な「温泉」資源の魅力に焦点をあて、各温泉地を舞台に期間限定により「阿蘇温泉郷・湯ごもり祭」を開催しました。ここでは、本イベントの開催にあたり、PRポスター・パンフレット等を作成し、地域内外へ広く情報発信しながら誘客促進を図り、滞在機能強化を推進しました。

平成24年度は、第3回目の開催で、期間は11月1日から翌年2月28日までの4ヶ月間と設定しました。期間中、2、628セットの入浴券購入があり、延べ11、689名の利用者がおり、阿蘇地域の冬季における誘客施策として定着化しつつあります。

- ・PRポスター：B2判カラー 30枚
- ・専用ハンドブック：B2判カラー 4,000部
- ・PRチラシ：A4判カラー 40,000部
- ・スタンドポップ：50×230mm 150個
- ・入浴券：220×85mm×5枚綴 4,000部
- ・パンフレットアスタンド：55×30mm 150個
- ・スタンプ①（めぐり湯用） 15mm 90個
- ・スタンプ②（泊まり湯用） 20mm 90個



## 健康づくりの郷・ウォーキングプラン

観光圏の中核となる阿蘇市においては、平成22年度から「温泉」「食事」「運動」「環境」の4つの要素をバランスよく組み合わせ、健康づくりを楽しむプログラムとして「健康づくりの郷」を推進しています。平成23年度に開催した「大阿蘇元気ウォーカー」を踏まえ、通常型によりJR宮地駅を起点に、農村集落や商店街を巡回するモーテルコースを設定し、自然景観にふさわしいサインの在り方や、統一性と魅力ある体系的なデザインの確立、国際化への対応などを総合的に検討した「阿蘇ウォーカーサイン計画」を策定しました。

また、本計画を活かし、モーテルコース上36箇所に誘導案内板を新設し、関連するウォーキング用マップを別途作成し、平成25年度からはJR九州とのタイアップ企画を創出しながら、滞在機能強化と交流空間の計られた地域づくりを進めます。

- ・阿蘇ウォーカーサイン計画策定：一式
- ・阿蘇ウォーク誘導板設置工事：36箇所
- ・阿蘇ウォークマップ作成配置：A3判 両面カラー印刷 20,000部



## 阿蘇くじゅう観光圏 拠点化計画策定

阿蘇くじゅう観光圏は、情報収集のネットワーク構築、総合的情報発信、問い合わせ窓口の一元化、外国人旅行者への案内サービスの充実、長期滞在型旅行に対応するコンシェルジュ機能の充実、地域密着型旅行商品の造成・流通開拓など、総合的な拠点展開を進めていく必要があります。

そこで、観光を通じた地域振興を図っていくために、行政区域にどうわれないエリアで様々な関係者が協働し、地域の資源を活用した滞在プログラムの企画や販売などを「行うための、市場と地域の窓口機能等を担う「観光地域づくりプラットフォーム」の形成が求められます。

「阿蘇ゆるっと博」のふりかえりを踏ました

関係者による検討会議を通して、阿蘇くじゅう観光圏における理想的な組織体制の方向性を取りまとめながら、平成25年度以降の体制づくりに向けた検討を進めてきました。

第1回検討会 平成24年9月12日
大阿蘇環境センター未来館 (出席者：21名)
第2回検討会 平成24年10月31日
大阿蘇環境センター未来館 (出席者：25名)
第3回検討会 平成24年11月30日
大阿蘇環境センター未来館 (出席者：17名)
第4回検討会 平成25年1月16日
大阿蘇環境センター未来館 (出席者：17名)
第5回検討会 平成25年3月18日
熊本県阿蘇総合庁舎会議室 (出席者：12名)

# 阿蘇ジオパーク

阿蘇火山の  
大地と人間生活

平成24年7月12日未明から降り続いた記録的な豪雨により阿蘇地域では深刻な被害がもたらされました。外輪内壁の土砂災害や内牧温泉街を中心とした浸水被害などは農業や観光に大きな影響を与えました。阿蘇地域振興デザインセンターは、ジオパークを推進する視点に立脚し、火山地域における地質的災害予測の面から調査・検証も行ってきました。



具体的には、阿蘇中央高校科学部によるジオパーク地形災害研究を支援しました。研究結果は高知県室戸市で開催された第3回日本ジオパーク全国大会で発表されるなど、全国的な評価も得ました。

また、阿蘇ジオパークを動植物や水、民俗学や歴史学といった各種専門家により構成される「阿蘇ジオパーク専門家委員会」に、防災のエキスパートを加えるなど、活動の幅の広がりをみせてています。

阿蘇ジオパークとしての新しい取組みは、去る7月12日に発生した九州北部豪雨災害を踏まえ、ジオパークが自然と地域社会との共存の理解に大きな役割を持つことを改めて認識し、減災のための教育手段として有効活用することです。

## 九州北部豪雨災害を教訓に



解説板については、阿蘇火砕流堆積物の重要な観察地点である小国町の遊水峡に新規設置しました。また、北外輪火砕流ジオサイトの遊水峡管理者の協力により、敷地内に阿蘇ジオパーク寄付金付きラッピング自販機が設置されました。

平成24年度は、計7箇所にて看板の改良・増設を行いました。ゲートサインは、国道57号、立野付近、立野駅入口、はな阿蘇美前の板面更新を行い、ASO田園空間博物館総合案内所（道の駅阿蘇）、阿蘇火山博物館前、阿蘇くまもと空港内にウエルカムサインを設置しました。

特に、NPO法人ASO田園空間博物館においては、道の駅阿蘇の敷地内に阿蘇ジオパークのラッピングを施した自販機を設置するなど、自主事業においても広くジオパークを理解するための活動を展開中です。

## 施設展示・サイン・解説板の増設

## 阿蘇ジオパーク活動の推進

阿蘇ジオパーク推進協議会による活動は、4年目を迎え、世界ジオパーク認定に向けては2度目のチャレンジの年でした。阿蘇地域振興デザインセンターが事務局を担い、阿蘇火山博物館に分室阿蘇ジオパーク推進室を設け、推進体制の強化を図りながら、解説板の設置やパンフレットの充実など環境面の整備に加え、地域への普及啓発活動に取組んできました。

8月2日に、ほぼ全てのジオガイドの皆様にお集まり頂き、専門的なガイド組織として「阿蘇ジオパークガイド協会」を設立しました。こ



**A 阿蘇小国ジャージークリームブリュレ**

カルデラの北側、小国郷で育つた、加工に適したジャージー牛乳を使用。クリーミーなおいしさが引き立つ、クセになる味です。

ジャージー食品（株）  
[TEL] 0967-48-8200  
[住所] 熊本県阿蘇郡南小国町満願寺 64941

キャンペーン対象店 ベリーアンドベリー [TEL] 0967-48-8200  
[住所] 熊本県阿蘇郡南小国町満願寺 64941

**F 阿蘇の酒れいざん**

神々が宿る霊峰・阿蘇を表す「霊山」がその名の由来。阿蘇の水・米・人が育んできた「阿蘇の酒」です。

山村酒造（名）  
[TEL] 0967-62-0001  
[住所] 熊本県阿蘇郡高森町高森1645

キャンペーン対象店 山村酒造（名） [TEL] 0967-62-0001  
[住所] 熊本県阿蘇郡高森町高森1645

**Q 阿蘇のあか牛あぶり寿し**

阿蘇の広い草原で育ったあか牛の旨みを、そのまま押し寿司に！お米も阿蘇産を使用し、阿蘇の恵みがぎゅっと詰まっています。

はな阿蘇美  
[TEL] 0967-23-6262  
[住所] 熊本県阿蘇市小里 781

キャンペーン対象店 はな阿蘇美 [TEL] 0967-23-6262  
[住所] 熊本県阿蘇市小里 781

れはジオガイドの皆様で組織し、今まで分散していたガイダンス業務の窓口を一本化する協会です。

本協会を通じ、「○ガイドとしてのレベル向上研修などを実施し、万全な体制で日本ジオパーク委員会による「一度目の現地審査に平成24年8月挑みましたが、まだ世界レベルに達していないなどの理由から「保留」という結果に留まりました。指摘事項を真摯に受け止め、随時改善をしながら、新年度における再審査へ臨んだ結果平成25年9月世界ジオパークネットワーク国内候補決定となりました。

に、各店舗の「フリー型イベントを通じ、地域住民や観光客に対し、阿蘇ジオパークへの理解浸透を図るための機会を提供しました。

認定商品は阿蘇火山や阿蘇の人々とのつながりを語るものとして審査を行います。平成24年度は審査会を通過した20商品を認定しました。25年度からの制度本開始に向け内容を充実させています。

## 世界大会及び全国大会への参加

世界ジオパーク認定に向けては、日本や世界各地で行われるジオパーク会議への積極的な貢献が求められます。

平成24年5月に長崎県・島原半島世界ジオパークで行われた「第5回ジオパーク国際ユネスコ会議」に参加しました。会議中は、阿蘇におけるジオパーク活動を世界に紹介するとともに、世界ジオパーク認定地域の先進的な活動事例を研修することができました。

また、国内ジオパークにおける情報交換及び意見交換の場として、平成24年11月、高知県・室戸世界ジオパークで開催されました日本ジオパーク全国大会、及び平成25年2月、福島県・磐梯山ジオパークで開催されました全国研修会に参加し、各種発表や交流を行いました。



## 阿蘇カルデラツーリズムの推進

阿蘇における地域づくり型観光の取組みは、自然を活用した「エコツーリズム」、商店街や温泉街を活用した「タウンツーリズム」という3つの地域ツーリズムの総合体による「阿蘇カルデラツーリズム」の開発と、公共交通網のシステム化を融合した「スローな阿蘇づくり」をベースに、滞在交流型観光地を創出します。

### ①エコツーリズムの推進

エコツーリズムは、阿蘇カルデラツーリズムの中でも核になる取組みです。特に、阿蘇地域振興デザインセンターが組織化した「阿蘇自然案内人協会」では、阿蘇の雄大な自然や歴史・文化を幅広く紹介する



### ②グリーンツーリズムの推進

平成23年度に開催した「阿蘇ゆるつと博」の成果を受け、様々な課題の調査分析を基に、地域の農業者や住民と連携し、課題解決のために必要な地域資源を活用した取組みを実践し、阿蘇地域の活性化を図ることを目的に、農家レストランや農家民宿、直売所が連携した47店舗により、阿蘇グリーンツーリズム協議会を組織しました。



### ③タウンツーリズムの推進

阿蘇市一の宮町の「一の宮町門前町会」「わきやもん会」、内牧温泉街の「うつむのまき案内協会」「内牧温泉街繁栄会」、阿蘇駅前の「ASO田園空間博物館」、高森町の「風と森の会」、小国町枝立温泉の「チーム背戸屋」などの地域づくり団体へ、日常的に情報交換やアドバイスを行なながら、広域連携の強化を図っています。

また、本協議会は、農林水産省の食と地域の交流促進対策交付金の交流促進計画に該当し、平成23年度に引き続き第2回となる「阿蘇スローフードフェスタ」を期間限定（10月～12月）により開催することができました。

農家レストランでは、地産地消を基本にありのままの素朴な料理で秋の味覚を提供し、自家菜園での収穫体験や近隣散策など、食後にも楽しい体験や特典を用意しました。農家民宿では、農村のスローな暮らしで、贅沢な時間を提供しています。

また、阿蘇地域でエコツーリズムを推進している団体（13団体）により、平成21年度から設

立の「阿蘇エコツーリズム協会」の運営では、各団体が実施しているプログラムを基本にした阿蘇エコツーリズム協会のホームページの管理・運営を行い、阿蘇エコツーリズムを広くPRしました。また、火山を中心に動植物や歴史・文化が一体的なストーリーを形成する阿蘇地域を正確に、分かりやすく、楽しく解説し、阿蘇地域を訪れる多くの人々にその魅力を伝えていくために、阿蘇におけるガイドの統一的な育成とレベル向上を目的に、阿蘇ジオパークガイド協会や公益財団法人阿蘇火山博物館などと共に、「阿蘇ガイド養成講座実行委員会」を組織し、自然体験活動に従事されるガイド育成及びスキルアップを図りました。

### ④タウンツーリズムの推進

収穫体験や郷土料理づくりなど、期間中でしか体験できないプログラムを用意しました。阿蘇地域の恵があること楽しめる直売所では、様々なイベントや特典を用意しました。

また、域内の回遊性を高める施策として、スタンプフリーを開催したところ、応募者総数は262名を確認しました。さらに、福岡都市圏を対象に催行した「阿蘇日帰り満喫スローツアーア」では、15名の参加があり、新しい阿蘇の魅力を提供しました。

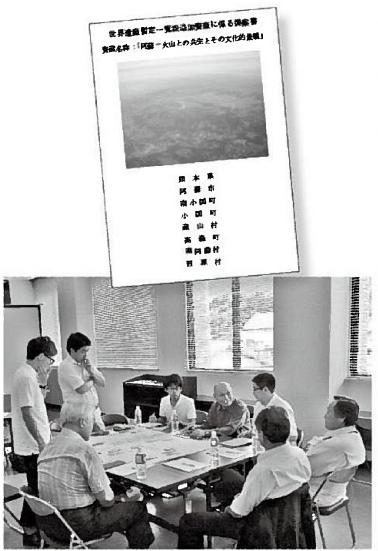
## 阿蘇環境デザイン策定事業

阿蘇地域は世界に誇れる独自の歴史・文化を有しています。こうした景観・環境・歴史・文化を保全、継承の方策を検討することを目的として、熊本県と市町村により世界文化遺産登録に向けて設立された「阿蘇環境デザイン策定事業」協議会と連携し、「阿蘇環境デザイン策定事業」に取組んできました。

阿蘇環境デザイン策定事業においては、阿蘇地域の7市町村それぞれが、地域の特性を理解するとともに、景観形成、なりわいの向上、自分の住むまちに対する地域住民の誇りと愛着の醸成へとつなげる道筋を示すために、地域別検討会等を開催し、地元住民の意見を聞きとりながら景観づくりの目標づくりを進めています。

平成24年度は、これまでの調査・検討の結果を整理し、「阿蘇の文化的景観」をマスタープラン（中間報告書）として取りまとめました。

本事業は、平成25年度までの3ヶ年継続としており、景観条例並びに景観計画の検討を進めながら地域住民との座談会やワークショップ等を開催し、阿蘇の文化的景観の重要な文化的景観選定に向けて今後も支援していきます。



## あそまる切符 昨年から新登場



全日本空輸(株)と九州産業交通ホールディングス(株)は、ANA並びに旅行商品「ANAスカイホリティー」の阿蘇くまもと空港到着便をご利用の来訪者を対象に、平成24年4月から、阿蘇くまもと空港と阿蘇くじゅう観光圏及び、熊本駅までの、九州産交バスやロープウェーが乗り放題（2日間券と3日間券の2種類）となるお得で便利な切符「あそまる切符」を発売しました。

## 口遊の交通体系づくり



## YOKAROバス運行



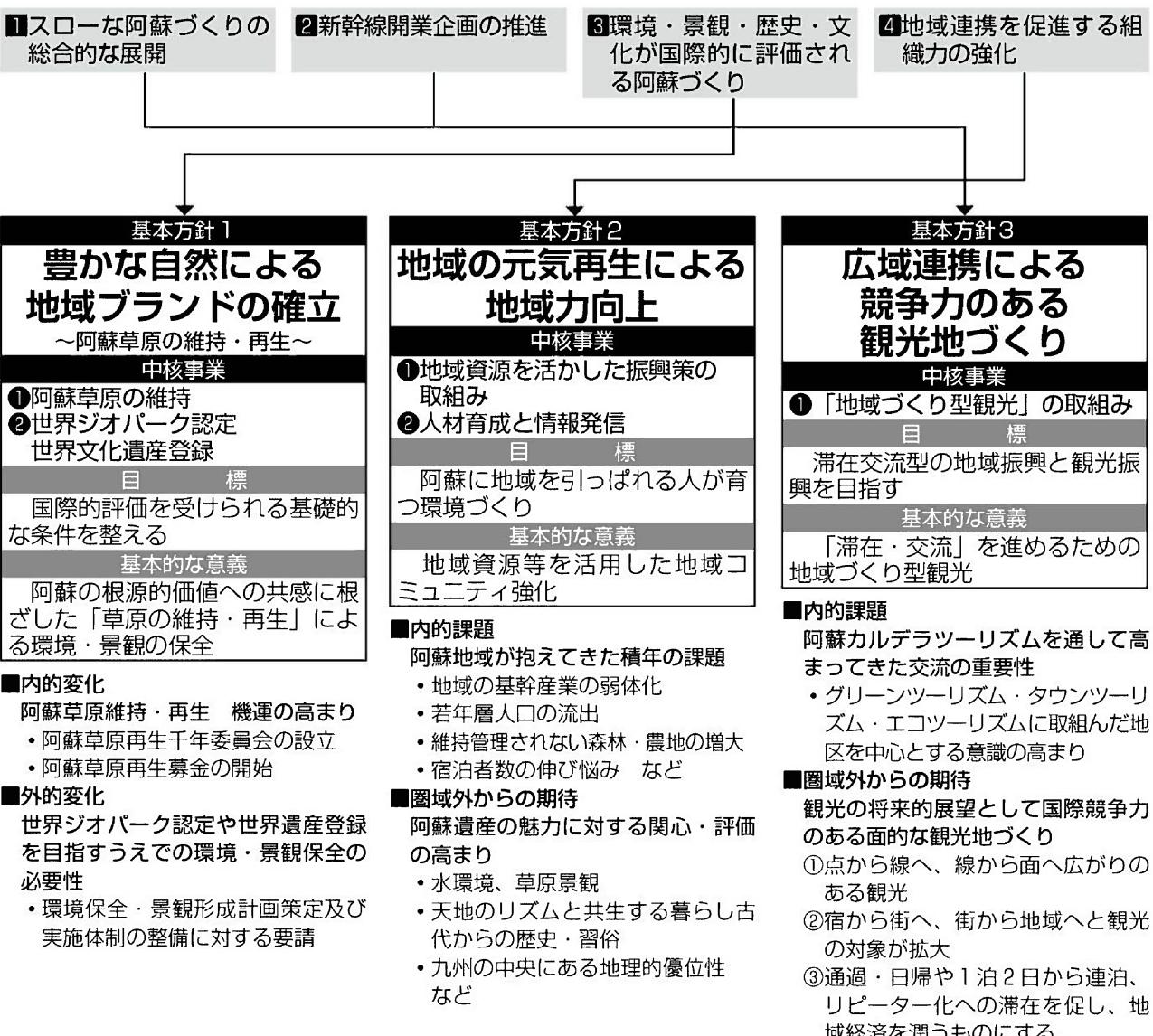
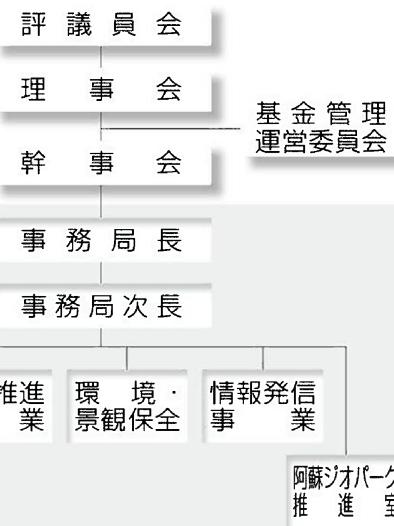
2012年8月1日より、九州産交バス阿蘇登山線に、「阿蘇ジオパーク号」が登場しました。阿蘇登山線は、阿蘇ジオパークのダイナミックな風景を楽しめることが有名です。毎日14便、山麓のJR阿蘇駅から草千里を通り、阿蘇口一駒ヶ岳のりば（阿蘇山西駅）まで運行しています。「阿蘇ジオパーク号」を使うと、内牧温泉、米塚、杵島岳、草千里、古坊中、中岳中といった人気のジオサイトに簡単にアクセスできます。車内では、阿蘇ジオパークのパンフレットが設置され、解説アナウンスも流れています。阿蘇ジオパーク号により、阿蘇山上エリアへのアクセスがさらに便利になりました。



## 公益法人制度改革に伴う新法人への移行について

平成24年度は、公益法人制度改革という国政の流れに沿い、阿蘇地域振興デザインセンターも財団法人から公益財団法人へ移行する転換期でした。4本柱である「地域振興」「観光振興」「環境・景観保全」「情報発信」をより公益性の高い事業として地域へ還元するため、平成24年度から向こう5ヶ年間の重点的に取組むべき課題を、新・中期計画として整理したのも、こうした組織の成長・進展を見据えてのものです。阿蘇の大切な地域資源である「草原」の維持・再生を改めて掲げるのは、環境・景観保全に取り組むのはもちろん、そこへ創意を加え競争力のある地域づくりを目指す志を付託するからです。

なお、人事面においては、7月から事務局次長の職責を設け事務局体制の強化を図るとともに、10月からは新事務局長体制により新たな展開を期するところです。



# 阿蘇の地域情報を発信中!

## 情報誌

### 情報誌「ASO大陸」

→0~1~4~8~30、000部

## 機関紙

### 機関紙「WAVE」

→0~19~30、000部

## ガイドブック

### 「阿蘇くじゅつウォーカー」…40、000部

## ホームページ

●「スローな阿蘇づくら」を分かりやすく紹介する動画専門サイト「阿蘇テレビ」は継続的に運営中です。携帯電話を活用した「阿蘇ナビ」は「阿蘇・旅の市場」として大幅リニューアルしてきました。

## ■阿蘇地域振興デザインセンター公式HP

<http://www.asodc.or.jp>

## ■阿蘇テレビ

<http://www.aso-tv.com>

## ■阿蘇・旅の市場

<http://asonavi.jp>

## ■Macbook・無線LAN

(域内12ヶ所・貸出中)

## ■阿蘇デジタルサイネージ

(域内13ヶ所・博多駅に設置中)



## FMRラジオ番組の運営

毎週土曜日お昼12時30分から13時までの30分番組、FM熊本の「ゆっくりのんびりASO大陸」の放送内容や取材先の決定、生電話「一人」の出演者の手配等を行いました。阿蘇地域の人や自然、観光地、イベントなどを広く紹介し、阿蘇の魅力を発信していました。

平成24年度は4社のスポンサーで「FMくわそ大陸の会」を運営し、番組の企画・協議を行ひながら進めました。

魅力を発信していました。

公益財団法人阿蘇地域振興デザインセンターが毎年発行する機関誌WAVEは、今年で第20号となりました。当財団も設立から23年が経ちます。先日は阿蘇が世界農業遺産認定という嬉しいニュースが飛び込み、阿蘇は年々注目される機会が多くなっています。阿蘇ジオパークの世界ジオパーク認定に向けての取り組みも、阿蘇ジオパーク推進室のメンバーを中心、阿蘇地域の皆様の協力を賜りながら一步前進しているところです。阿蘇は九州を代表する観光地でもあります。今後も阿蘇が全国・世界へと羽ばたけるよう、当財団は地域へのサポートを続けていきます。

（瀬）

## （公財）阿蘇地域振興デザインセンター

事務局長	國 谷 恵 太
事務局次長	郷 藤 澄 雄
事務局員	瀬 津 田 美 昭 和 誠 喜 明 創 信
事務局員	石 興 江 松 枝 藤 昭 誠 喜 明 創 信
事務局員	熊 南 小 人 五 御 所 浦 牛 深

## 阿蘇ジオパーク推進室

片 山	瀬 津 田 美 昭 和 誠 喜 明 創 信
山 内	石 興 江 松 枝 藤 昭 誠 喜 明 創 信
永 紀 彰	熊 南 小 人 五 御 所 浦 牛 深
万里子	石 興 江 松 枝 藤 昭 誠 喜 明 創 信

# 阿蘇が世界農業遺産に認定

平成25年5月29日、石川県七尾市で開催されました「世界農業遺産国際会議」にて、阿蘇地域世界農業遺産推進協議会が申請していた「阿蘇の草原の維持と持続的農業」が、新たな世界農業遺産として認定されました。日本では、平成23年に新潟県佐渡地域及び石川県能登地域が認定されており、11カ国19カ所が登録済みであつたところに今回阿蘇地域を含む国内3カ所、海外3か所の計6カ所が新たに認定されました。

国際会議には、蒲島知事をはじめ阿蘇地域の全市町村長ら推進協議会のメンバーが参加し、蒲島知事、登録活動を提唱した熊本市のレストランシェフ 宮本健真氏、南阿蘇村の農家 大津愛梨氏がプレゼンテーションを行い、高く評価されました。

世界農業遺産（G-AHS・ジアス）とは、

国際連合食糧農業機関（FAO）が平成14年から開始したプロジェクトで、グローバル化・環境悪化・人口増加等の影響により衰退の途にある伝統的農業や文化、土地景観の保全と持続的な利用を図ることを目的に、次世代へ継承すべき持続的な農業システムを認定するものです。

農業や土地利用だけでなく、生態系や土地景

観、習慣、伝統文化など農業に関連する文化的な要素も含め、次世代への継承を目標します。

## 認定の効果

### ■メリット

・国内だけに限らず国際的な知名度も高まることから、観光振興や農業振興へはすみがつき、相互が連携することにより新たな地域の農業牽引が期待される

・阿蘇の農業の価値が世界レベルであると認められることにより、経済社会の変化に伴い継続が難しくなっている野焼きなどの取組みの維持に対する県全体の機運の醸成

・阿蘇地域が現在取組んでいる世界文化遺産、世界ジオパークの認定への後押し

・認定を契機とし、地域の農林産物に認証制度を設けるなどの取組みを通して付加価値の向上

### ■認定後の責務

認定されることによつて、農業生産活動そのものに直接の制限が加えられるものではありませんが、認定の核となる農業システムが維持されていいくことが必要

・申請書の記載に沿つた行動計画・保全管理の実施について、年1回報告書の作成が必要

